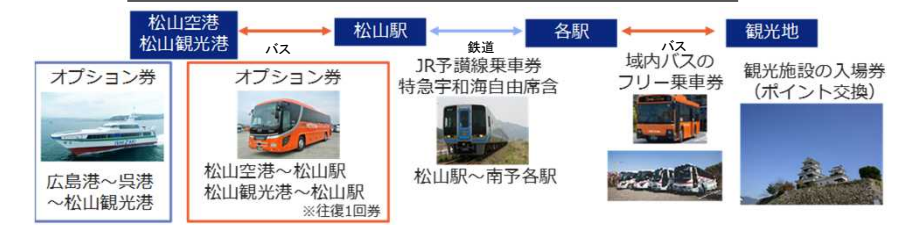


愛媛県南予地域における観光MaaS実証実験

低コストで運用できるNFCタグやQRコードを活用したデジタルフリーパスの導入や、公共交通を乗り継いだ利用者への特典の付与等により、観光客の周遊性を向上し、西日本豪雨により低迷している観光業の活性化を目指す。また、利用者の移動や決済データを把握し、今後の観光客誘致や交通ネットワークの再構築、まちづくりに活用する。

協議会の構成員	【幹事】KDDI（株）、南予広域連携観光交流推進協議会（愛媛県）、全日本空輸（株）、四国旅客鉄道（株）、（一社）愛媛県バス協会、伊予鉄バス（株）、宇和島自動車（株）、（株）瀬戸内ブランドコーポレーション、石崎汽船（株）、オブザーバー 四国運輸局	
地域課題	- 公共交通の利用者の少なさ等により厳しい経営環境にある公共交通の路線を維持するため、自治体の財政に頼らざるを得ない状況であること - 公共交通や観光施設等でのキャッシュレス基盤が未整備であること - 平成30年の西日本豪雨の影響による観光客数の減少・観光消費額の低下	
取組の概要	期間	2020年10月29日～12月31日
	エリア	愛媛県南予地域（宇和島市、八幡浜市、大洲市、西予市、内子町、伊方町、松野町、鬼北町、愛南町）、松山市、広島県広島市、呉市
	MaaSシステム	NFCタグとWEBアプリを組み合わせた低コストで利便性の高いMaaSシステムを独自に構築。
	交通サービス	- NFCタグやQRコードを活用した鉄道や路線バス、リムジンバスのデジタルフリーパスの販売 - GTFSに対応させ、複合経路検索(Google MAP、Apple MAP)との連携
	交通以外のサービス	- NFCタグに対応したポスターにスマートフォンをかざすことで周辺施設の情報の取得や、周辺施設までのルートの検索可能 - 観光施設の入場券等に引き換え可能なポイントを公共交通を乗り継いだ利用者へ付与 - 食べログとの連携による飲食店情報の提供や旅行保険等の加入導線の提供 - 愛媛県の防災や危機管理情報との連携 「ANAアプリ」と連携し、松山空港や広島空港利用者に対して「ANAアプリ」上でデジタルフリーパスの購入を促進
検証内容	- デジタルフリーパスの導入に対する利用者・事業者双方の課題の検証 - 購入までの手間の削減によるデジタルフリーパスの購入率の上昇の検証 - NFCタグによる公共交通機関を利用した観光客の周遊状況の把握・分析 「ANAアプリ」との連携による効率的な観光客へのアプローチの検証 - 公共交通機関の乗継メリット付与による周遊促進に対する効果の把握 - イニシャルコスト・ランニングコストを抑えることによるMaaSの持続可能性の検証	

取組イメージ	
提供するMaaSシステムの特徴  お持ちの乗車券は→こちら表示できます 駅やバス車内、観光施設に設置されたステッカーにスマホをかざすだけでチケットが購入、表示が可能 ユーザーにとってのメリット + 事業者にとってのメリット ダウンロード不要 決済額未必要 会員登録不要 クレジットカード登録不要 電源不要 決済額未必要 初期費用不要	周遊促進施策  【ポイント獲得イメージ】 乗車時 1P 降車時 1P 乗車時 1P 降車時 1P 鉄道、バスの乗り降りでも1ポイント付与 4ポイント貯まると農業、商業、観光施設などで使える割引券を提供 【割引券が使用可能な観光施設例】 手しごと郷土の家（大洲市） 大洲城、お松山荘（大洲市） 八幡浜温泉温泉 伊方町観光交流拠点施設 伊予市立歴史民俗資料館（伊方町） 関門寺子（宇和島市） 伊予市立歴史民俗資料館（伊方町） 伊予市立歴史民俗資料館（伊方町） 伊予市立歴史民俗資料館（伊方町）
連携する公共交通機関（フリーパスで利用可能な交通機関）  松山空港 松山観光港 松山駅 各駅 観光地 バス JR予讃線乗車券 特急宇和海自由席含 バス 域内バスのフリー乗車券 観光施設の入場券（ポイント交換） オプション券 松山空港～松山駅 松山観光港～松山駅 ※往復1回券 松山駅～南予各駅	
検証結果 - チケットのデジタル化については技術面、オペレーション面で重大な問題は発生しなかった - チケット購入、利用において利用者評価は4点（5段階評価）を得た - 利用者の周遊状況の可視化を実現（右図参照） - ANAアプリからの高い送客を実現（販売数の約12%を占めた） - 公共交通機関を利用することで観光施設入場券と引き換えができるポイントを付与し、周遊を促進（観光施設チケット引き換え率40%） - ルート案内や時刻表などをアプリ化した際に比べ、7分の1のコストを実現	
今後の方向性 - 告知期間を延ばし、利用方法やチケット内容のPRを拡大する - 券種を増加させ、より多くのニーズに対応できるようにする - レンタカーなどの新モダリティ追加、公共交通機関 + aのチケット販売により、利用拡大を図る - オペレーション上の問題を改善するため、本年の課題を改善する - 周遊性を高めるため、より多くの観光施設の参画を目指す	